

戎家美紀氏に『輝く女性科学者賞』女性科学者活躍推進賞は九州大学に

科学技術振興機構（瀧口道成理事長）は17日、輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）を戎家美紀欧州分子生物学研究所（EMBL）バルセロナ・グループリーダーに、輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン アシダ賞）を九州大学に授与する、と発表した。選考過程で戎家美紀に次ぐ高い評価を得た深澤愛子京都大学高等研究院物質－細胞統合システム拠点教授には、輝く女性研究者賞（科学技術振興機構理事長賞）が授与される。表彰式は11月17日、日本科学未来館で開かれ、戎家美紀氏には賞状、賞牌と副賞として100万円が、九州大学と深澤愛子氏には賞状と賞牌がそれぞれ贈られる。



戎家美紀欧州分子生物学研究所（EMBL）バルセロナ・グループリーダー（科学技術振興機構東京本部）

輝く女性研究者賞と輝く女性研究者活躍推進賞は、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者と、女性研究者の活躍を推進している機関を表彰する制度として創設された。今回が第一回目の表彰となる。戎家美紀氏は、合成生物学の分野

での研究成果と、欧州と日本の研究者の交流促進を図る活動などの社会貢献が受賞理由となった。自発的な細胞分化やパターン形成を人工的に作る研究成果に加え、誕生から死ぬまでの時間スケールが生物種によって大きく異なる仕組みの解明に挑む研究でも注目されている。

九州大学は、2009年に他大学に先駆けて「女性枠設定による教員採用・養成システム」を立ち上げ、優秀な女性人材を発掘、育成する「九大方式」を構築した。2017年には配偶者帯同雇用制度を創設している。女性枠で採用した教員の研究能力が高いことを論文業績分析で定量的に明示し、同制度の効果を明確に分かるような形で実証したことも受賞理由となった。

深澤愛子氏は、高強度な光を照射しても退色しない蛍光色素や、安定な塗布型有機半導体など機能性有機材料の創製で突出した実績を持つ。各種メディアを通して社会への情報発信に継続的に取り組むなどの社会貢献も受賞理由となった。

濱口道成科学技術振興機構理事長の記者発表に同席した戎家美紀氏は、副賞(100万円)の一部を使い日本の大学生をバルセロナの研究所に短期間招き、欧州の研究環境を知ってもらう計画を明らかにした。「欧州の情報があまり入ってこない日本の大学生に研究生活には多様な選択肢があることを伝えたい」と計画の目的を語った。

内藤敏也九州大学理事・事務局長は、2009～2018年に女性研究者養成システム改革加速事業で採用した50人の女性教員の科学研究費採択数が、2016年度の1人当たり採択数と比較すると大学教員全体の平均採択率を上回る数字などを挙げ、女性が本来の能力より低く評価される「無意識のバイアス」が働いていないか大学として絶えずチェックすることの重要性を強調した。



内藤敏也九州大学理事・事務局長(右)。左は戎家美紀氏 (科学技術振興機構東京本部)

輝く女性研究者賞 (ジュン アシダ賞) の受賞者に贈られる副賞の 100 万円は、芦田基金から提供される。芦田基金はファッションデザイナーの芦田淳氏(故人)創業の株式会社ジュン・アシダからの寄付によって 1994 年に設立された。公益社団法人科学技術国際交流センターが運営管理している。服飾素材開発と染織技術に関する日本人技術者の育成事業を推進するのが基金運用の当初の目的だったが、現在は広く一般の科学技術分野での人材交流など事業内容が拡充されている。

日文：小岩井忠道 (JST 客観日本編集部)

関連サイト

科学技術振興機構プレスリリース「第 1 回輝く女性研究者賞 (ジュン アシダ賞) 受賞者の決定と表彰式開催について」

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1397/index.html>

科学技術国際交流センター「芦田基金運営事業」

<https://www.jistec.or.jp/activity/other/ashida/>